

## 研修医の手記

竹内 大輔



初めまして、こんにちは。市立釧路総合病院で研修医1年目の竹内大輔と申します。医師として、社会人として働き始めてから半年以上経ちました。医学部6年間で何も勉強しなかったのではないかと錯覚してしまうほど自分の知らないことは多いのだと痛感していますが、1日1個でもできることを増やしていこうと日々頑張っています。

釧路に来てからといえば、以前は魚が嫌いで喉がかゆくなってしまふほどでした。魚アレルギーかなと思っていましたが、働いてからは美味しくいただくようになりました。やはり釧路の魚は別格ですね。そんな話はさておき。

まわりの先生方やコメディカルスタッフの方々は

教育熱心な方も多く、全体的に働きやすい環境だなと感じています。思えば学生の時、なんとなく申し込んだ市立釧路総合病院の見学で、とても雰囲気良かったことがここでの研修を志望したきっかけですが、あの時の直感を信じて正解だったな、としみじみ思います。

研修1年目は各診療科をローテーションします。様々なことを学べますが、裏を返せば勉強しなければならないことが目まぐるしく変わるわけで、思っていた以上に大変です。医師として必要なものはたくさんあると思いますが、少なくとも知識は最低限必要なものでしょう。恐らくこの文章が世に出回るころには研修生活の半分が終わるくらいだと思いますが、残りの半分も悔いのないよう、多くのことを学んでいきたいと思っています。短い間ではございますが、よろしくお願いします。

## エキスパートナース紹介 Part.21



みなさま、こんにちは。乳がん看護認定看護師の荒堀と申します。

2009年に乳がん看護認定看護師の資格を取得しました。これまで、乳がんの告知を受けた後の気持ちの整理をお手伝いし、多様な治療の選択肢の中から患者さん自身が納得して治療方法を選択するためのサポートを中心に行ってきました。さらに、治療による副作用の対処方法についての相談や、再発・転移に対する不安などに対応してきました。また、地域においては、くしろ健康まつりや釧路町主催の健康づくり教室などで乳がん検診の重要性と自己触診の方法について、参加された地域住民を対象に指導する機会をいただきました。コロナ渦の現在では、地域のみなさまと直接お会いできる機会が減ってしまいましたが、地域のみなさまには、ぜひ定期的に乳がん検診を受けていただきたいと願っています。

乳がん罹患者数は増加の一途をたどっており、現在では女性の9人に一人が乳がん罹患者といわれています。乳がん治療を取り巻く状況も、使用できる薬剤の選択肢が増えていることや、遺伝に関連する検査や治療薬が承認されるなど、日々進歩しています。私自身も乳がんに関する新しい知識を常にアップデートできるよう努力しています。患者さんが乳がん向き合いながら充実した人生を送るために、疑問や不安を少しでも解決できるよう、親しみやすく信頼される乳がん看護認定看護師を目指しています。今後もどうぞよろしくお願い致します。

乳がん看護認定看護師 荒堀 有子



## 連携ニュース 春湖台

第28号：令和3年1月4日発行

## ごあいさつ



市立釧路総合病院 院長

高平 真

本稿執筆中の今、まさに新型コロナウイルスの感染拡大が続いている真ただ中です。当院は昨年11月に深刻な院内感染を経験し、地域の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけしました。当初から懸念されたことですが、最終的にウイルスはめぐりめぐって濃厚な接触が避けられない医療や介護という脆弱な現場に襲いかかってきます。いったんウイルスに侵入されると、患者さんや職員の協力があっても一病院だけの終息は極めて困難であることを痛感いたしました。地域の医療機関や保健所などのご協力にあらためて感謝申し上げます。コロナウイルスとの戦いも丸1年になろうとしています。長い戦いに医療従事者たちのストレスや疲弊ははかり知れません。しかし、先が見えない戦いの中でも高度医療や救急医療など地域の基幹病院として機能を維持することが当院の使命と考えています。今後も、患者の皆様のご協力を仰ぎながら当院職員一丸となって感染防御を徹底し、地域の医療を守っていく所存です。

重ねまして、関係各機関のご理解とご協力をお願いいたします。

## 理念「信頼と満足の創造」

## 経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。



## 市立釧路総合病院

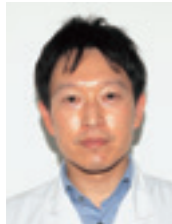
発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号

TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

## がん長期療養者の就職支援について

ソーシャルワーカー **木田 亮太郎**



皆様、お世話になっております。医療連携相談室ソーシャルワーカーの木田と申します。  
今年11月にハローワークと長期療養者就職支援事業実施協定を締結しまして、毎月第3金曜日の14時から16時の予約制で、医療連携相談室にてハローワークの就職支援ナビゲーターとがん長期療養者の就職支援を行うこととなりました。

私はソーシャルワーカーとして釧路市内の障害者施設で11年勤務し、ハローワークより委託を受け、精神障害者就職サポーターとして障害者雇用のカウンセリングに従事して参りました。平成23年4月より当院で採用となり精神保健福祉士、社会福祉士として主に退院支援を担当し、がん相談支援センターの相談員としても従事しております。

当院につきましては、がん診療連携拠点病院となっておりますので、病気の治療と仕事の両立に向け、離職を余儀なくされ再就職を希望する長期療養者に対する専門的な就職支援の必要性を日々感じております。

長期にわたる治療を受けながら、生きがいや生活の安定のために就職を希望する方に対する就職支援を推進することが社会的な課題となっており、今後は医療機関として病状に応じた働き方を企業へ理解してもらえるような支援を医師、看護師と協働して行っていきたいと思っております。

## 骨粗鬆症リエゾンサービスの活動について

骨粗鬆症マネージャー **高橋 亜希子**



骨折は要介護や寝たきりになる要因のひとつです。高齢者の骨折の背景には骨粗鬆症が深く関係しており、60代で5人に1人（21.3%）、80代では5人に3人（66.7%）の割合で見られる身近な病気です。

当院では骨粗鬆症リエゾンサービスワーキンググループを整形外科医師、歯科医師、病棟・外来・地域連携室看護師、理学療法士、放射線技師、栄養士などの職種で結成し、活動を行っています。現在の活動の内容は、50歳以上の大腿骨近位部骨折を起こした患者に限定して、次の骨折を起こさないよう、薬物治療の開始・継続のサポートや、転倒を起こさないための運動の指導、骨を丈夫にするための栄養指導などを行っています。

平均寿命が延びているなか、元気に自立して過ごせる「健康寿命」も伸ばしていけるよう、今後は全ての骨粗鬆症患者を対象に、活動の幅を広げていきたいと思っております。

## 緩和ケアweb講演会について

当院は地域がん拠点病院として、釧路地域の医療従事者を対象に、例年緩和ケア講演会を開催しています。

今年はコロナ禍のため、令和2年11月28日（土）に初めてweb配信で開催しました。

当日はオンラインツールZoomを使用して、東京から永寿総合病院の廣橋先生に講演いただき、釧路労災病院の小田先生と杉元内科の杉元先生にはパネリストとして参加していただきました。

初めてのweb配信開催でしたが50人の参加があり、大きなトラブルもなく1時間の講演会を終えました。

対面の講演と違い、参加者が気軽に自宅から参加できること、質疑応答やアンケートもweb上で行えるなど、web開催ならではのメリットも多かったです。

当院はこれからも、緩和ケアに関する研修や他院との多職種連携カンファレンスを通じて、周辺地域に対するがん医療への貢献を続けてまいります。

